

真のエリートを目指した教育を!

●浦高第30代校長・小島先生のスピーチ・後半
昨夜の会員スピーチは埼玉県立浦和高等学校第30代校長・小島克也先生の「同窓校長として思うこと」の続きです。



■同窓校長として思うこと ◆課題解決への具体的な一手

■部活動の活動方針

【基本的な理念】

生徒に心と体の余裕を与えることのできる部活動を目指す

【具体的な方針】

全体の強制練習は、週5日以内とし、最低2日は、一人一人の自由な時間として保証する

教員や生徒たちには丁寧に話したのですが、当然反対もありました。「校長は自分たちが自主的にやっている部活動にまで干渉するのか。部活動を弱くするのか」というようなものでした。それに対して私は「部活動も勉強も一生懸命にやって欲しい。さらに2日は自分たちがやりたいことをやってもらいたい。部活動で自主練習をやりたいという人は今まで以上に部活動に時間を費やしても構わないし、それ以外の生徒たちは自分の趣味の時間を過ごしてもらうように強制練習を5日制にしよう。効率的な時間の使い方をそれぞれが考えよう」と話しました。

これは、3年生の面談の中から出てきた課題に対する解決のための提案だったのですが、浦高の風土として定着するように後任の先生方にも伝え残していきたいと考えています。

◆校長として生徒にいつも投げかける言葉

① 真のエリートになれ

世の中では、「エリート」という言葉には、どちらかというマイナスのイメージが付きまっています。たとえば、「あいつはエリート意識を持った鼻持ちならないやつだ」とかという言葉です。しかし「真のエリート」とは、世間で思われている「受験エリート」とか「肩書エリート」とは似て非なるものです。

「真のエリート」とは、高学歴、高収入、高い地位といった外面的属性で語ってはいけない言葉です。世の中を見渡すと、政治家であっても、一流企業の経営者であっても、他人の痛みを気にもかけず、己の利益のみ追求し、やがてうそやごまかしが露呈して失脚していく人たちが後を絶ちません。そのような人たちは、どんなに学歴があっても、どんなに社会的地位が高くても、そもそも「真のエリート」に値しない人たちです。

では、「真のエリート」とは何か。今申し上げた通り、学歴や肩書で語られるような薄っぺらなものではないことは確かです。多摩大学大学院の田坂広志教授は、ご自身の著書の中で、見事にこう言い表しています。「今、多くの人たちが、「エリート」という言葉の意味を誤解している。「エリート」とは、「厳しい競争を勝ち抜いた優秀な人間」のことではない。そのことによって「自分は誰よりも優秀だ」と思い込んでいる人間のことはではない。「真のエリート」とは、自分が「恵まれた人間」であることを知り、そのことに感動し、その深い感謝を、世の中の多くの人々の幸せのために生きることによって、表して、歩む人間のことだ。」

こうした自覚が第一歩であり、才能を持っている人間として世のため、人のためにその才能を使ってほしいと言っています。

② 謙虚に生きろ

真のエリートってみんな謙虚な人間である、ということ。うぬぼれない。社会的に上の立場にあるにもかかわらず、偉ぶらない人。これが真のエリートのまず第一条件じゃないだろうか。学生たちには、「将来の真のエリートとなるために、謙虚な人になってもらいたい。うぬぼれちゃいけない」と言っています。

③ 挨拶上手になれ

自分から挨拶するという行動は、謙虚さを常に忘れないための基本です。挨拶は相手をリスペクトする感情からでるものだと言っています。

◆グラウンドの人工芝化

今年に入って体育の教員から「グラウンドの人工芝化」の話がありました。浦高のグラウンドは固く、体育祭では怪我人も多くいます。そうした生徒たちの運動での怪我を防ぐために人工芝にしたいというものでしたが、整備費に6,000万円、10年後の張り替えで4,000万円もかかるということでした。

天然芝にすれば最高なのですが、養生やグラウンドキーパーなどの手当を考えると無理な話で、人工芝が良いと考え、埼玉県教育局に相談すると、「浦高だけ人工芝にすることはできない」というものでした。当然と言えば当然かも知れませんが、何とかならないだろうかと考えました。

① 無理難題への挑戦

日頃から生徒たちに「無理難題に挑戦せよ」と言っている以上、私も挑戦しなくてはなりません。何とか任期中にメドを立てたいと考えています。

② 人工芝のメリット

人工芝のメリットは、怪我の予防、雨天でも利用可能、地域スポーツの拠点化等さまざまな点が挙げられます。一方で人工芝のマイクロプラスチックが海洋汚染の原因になっているという論文もありました。こうしたことを踏まえながら、課題に挑戦していきたいと思っています。

③ 募金への取組

埼玉県では「教育環境整備基金制度」というものを持っていて、「ふるさと納税制度」を活用することで、皆さんが2000円以上「ふるさと納税」していただくと、2000円を超えた部分が人工芝の原資となります。来年の同窓会報と一緒に資料をお送りしたいと考えています。

また、OB有志による応援プロジェクトも立ち上がりました。ぜひ、同窓会の皆様のご協力をお願いいたします。

◆ラグビー受傷者への支援
2013年と14年のラグビー部の試合中に頸椎を損傷した2人を支えるためにご協力いただきありがとうございます。

1人は社会人になり、もう1人は大学受験に挑戦中ですが、まだまだ支援が必要ですので、よろしくお願いいたします。



[春日部地区浦高会・根本会長から小島校長先生(左)に浦高奨学財団への寄付金をお渡ししました]

◆会員からの近況報告

懇親会の後半では、さまざまな近況報告が...

◆篠田雅彦・浦高同窓会事務局長(32回):「同窓会からのお知らせ」をご覧いただければ4月以降の動きが分かります。総会の事、一般社団法人に向けた動き、奨学財団の活動、名簿発行の事、浦高百年の森活動、麗和セミナー、部活動の活躍。



◆島村玲郎さん(30回):ほぼ10年振りの参加です。今日は同期の小島校長が来られるというので参加させていただきましたが、来年は30回生が5月の同窓会の講演と懇親会幹事を務めます。よろしくお願いいたします。

◆八木晃一さん(16回):私は高校時代に体育が得意ではなかったのですが、グラウンドでの持久走で最後まで諦めずに走り抜いた時に体育の先生から褒められたことが励みになり、社会に出て金属研究を地道にコツコツとやるのが出来たのではないかと思います。



◆本田裕士さん(58回):市役所の生活支援課でコツコツと仕事に励んでいます。古河強歩大会では部活で1年走っていないので、3回目の古河マラを走りたいと密かに思っています。[今年からOB参加も認められるようになりました]

◆大和田一博さん(30回):私は地域の狭い所でお役に立てるよう努力していますが、小島校長から世界で活躍できる人材を育てているということを知り素晴らしいと思いました。私も研修医の時代にさまざまな経験を重ねて「平凡こそ非凡なり」という境地になりましたが、浦高はその実践の場だったような気がします。



【酔っていたので間違っていたらゴメンなさい!】

**浦高から学校部活動の
新しい形を創造しよう!**

ハードを創える
施設改善
(人工芝化等)

ソフトを創える
地域開放
OB会活性化

競技力
向上

怪我
防止

地域
貢献

学校行事
や授業の
安定運営

浦高から全国に発信

[浦高高校部活応援プロジェクト Fb より引用]

company newsletter

THE RUGBY TIMES

2019.4.1 Monday 浦高ラグビー部事故負傷者を支える会

「浦高ラグビー部事故負傷者を支える会」について
この会は、2013年ラグビー部が全日本大会出場を決めた時、選手と関係者から支援を依頼された後、更なる支援を依頼された。2013年以降、浦高ラグビー部が全日本大会出場を決めた時、選手と関係者から支援を依頼された。2013年以降、浦高ラグビー部が全日本大会出場を決めた時、選手と関係者から支援を依頼された。

就職が決まりました。
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会 代表 小島 隆之介 様へ
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会 代表 小島 隆之介 様へ
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会 代表 小島 隆之介 様へ

大学進学を目指します。
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会 代表 小島 隆之介 様へ
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会 代表 小島 隆之介 様へ
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会 代表 小島 隆之介 様へ

引き続きご支援をお願いいたします

「浦高ラグビー部事故負傷者を支える会」
代表 小島 隆之介 様へ
浦高ラグビー部事故負傷者を支える会
代表 小島 隆之介 様へ

[浦高ラグビー部事故負傷者を支える会の会報 2019年4月]